



令和8年度

横浜市立生麦小学校

学校だより

6月（永無^{ぶき}月）

横浜市鶴見区生麦4-15-1

学校長 上床 健太

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/namamugi/>

すこ せいちょう めざ 健やかな成長を目指して

こうちょう うえとこ けんた
校長 上床 健太

5月も下旬になり、日中は「暑い」と感じる日が増えてきました。日本の他地域では、最高気温が35℃以上の「猛暑日」を観測した地点が出てくるなど年々夏の訪れが早まっていることを感じずにはいられません。まだ体が暑さに慣れていない時期ですので、子どもたちの健康状態に留意しながら教育活動を行っていきたいと思います。そんな中でも子どもたちは、休み時間は校庭を走り回り、元気に過ごしている姿が見られます。そんな姿を見ているととても嬉しくなります。

さて、5月は「体力テスト」を行いました。この「体力テスト」ですが、2020大会の前の東京オリンピック（昭和39年）を機に、昭和36年に公布された「スポーツ振興法」をもとに、国民の体力・運動能力の現状把握を目的に始まったものです。その後、名称や実施種目の変更を重ね今に至っています。現在は、平成11年から行われている「新体力テスト」となり、「50m走」「20mシャトルラン」「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横跳び」「立ち幅跳び」「ボール投げ」の8種目を行っています。本校では、「50m走」



「20mシャトルラン」「握力」を学級・学年で行い、「立ち幅跳び」「ボール投げ」「反復横跳び」「長座体前屈」「上体起こし」を1・6年、2・5年、3・4年のペア学年で行いました。どの学年の取組でも、校庭や体育館には、少しでも良い記録を出すそうと一生懸命に取り組む子どもたちの姿、頑張る友達を応援する姿をたくさん見ることができました。また、ペア学年のかかわりでは、上級生が下級生に動き方を優しく教えたり、一緒に動き、記録をとったりする素晴らしい姿が見られました。ペア学年のたてわり活動のよさがあふれていました。

体力テストによると子どもたちの体力は、昭和60年ごろをピークに低下傾向にあるというデータが示されています。その要因として、様々な要素が考えられますが、子どもたちを取り巻く環境の変化も大きな要因の一つだと思います。そのような環境の中で育つ子どもたちの体力向上、維持を図っていくためには、子どもたちが運動に楽しみを見出し、生涯に渡って運動に親しんでいけるようにすることが大切です。その一役を担っているのが、体育学習をはじめとする学校での生活であると思います。学習指導要領体育科の目標の中に育てたい資質能力の一つとして「運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度」ということが示されています。つまり、学校体育が目指すものは、みんなが生涯に渡って運動に親しみ、そこから得られる楽しみ、喜びを豊かな生活につなげていくことです。そのため、体を動かすことの心地よさが味わえるような体育学習を目指して様々な工夫を取り入れながら、日々の授業に取り組んでいます。また、横浜市では、子どもたち一人ひとりの体力テストや生活状況調査のデータが蓄積され、一人一台の端末で個人のデータを確認することができます。子どもたちが自己の体や生活習慣に向き合い、データを確認したり、活用したりしながら、体力の向上、維持、生活習慣の見直しにつなげ、元気な生活が送れるよう支援していきます。ご家庭でも、「早寝・早起き・朝ごはん」などの規則正しい生活習慣の維持にご留意いただけたら幸いです。子どもたちの健やかな成長、体力の維持、向上のために、これからも学校、家庭、地域が連携して取り組んでいきたいと思っています。